

第2回 国立市地域公共交通会議 要点記録

◆日 時 平成25年3月26日（火） 14時30分から16時20分

◆場 所 くにたち市民総合体育館 2階 会議室

◆出席者

国立市地域公共交通会議委員（代理出席含む）15名

会長	岡村敏之	学識経験者
副会長	小沢宏康	都市振興部長
委員	佐藤祐浩	一般乗合旅客自動車運送事業者
〃	窪田洋	〃
〃	原田弘司	一般乗用旅客自動車運送事業者
〃	清水光司	〃
〃	（代理出席）	国土交通省関東運輸局
〃	（代理出席）	一般旅客自動車運送事業者労働組合
〃	江村英利	市道管理者
〃	井上伸一	警視庁立川警察署
〃	田中義忠	公募市民
〃	三好幸雄	〃
〃	熊井大	〃
〃	池田洋介	〃

（敬称略）

事務局	4名	都市振興部建設課交通係
-----	----	-------------

◆配布資料

①次第

②資料No.1 地域公共交通会議の進め方

③資料No.2 コミュニティバスの見直し・改善等について

④参考資料No.1 車両幅と相互通行可能な道路幅員

⑤参考資料No.2 「くにっこ」利用者状況表

⑥参考資料No.3 国立市コミュニティバス「くにっこ」概要

⑦参考資料No.4 車両比較表

◆要点記録

1. 資料確認（事務局）

2. 報告（事務局）

（１）前回ご要望のあった資料３点について、市役所で作成したのでご確認いただきたい。①現行の「くにっこ」ご案内パンフレットは、裏面の時刻表が見にくいとのことだったので見やすくなるよう工夫をし市役所オリジナル版の案内パンフレットを作成した。今後、さらにご意見等いただきながらよりよいものにしていきたいと考えている。②ワゴン車も含めた乗り合い用車両が相互通行できる道路幅員を色分けして示したものが参考資料 No.1 である。なお、実際には安全確保等が必要になるので交通管理者・道路管理者との協議が必要となるためここで色を付けた道路がすべて通れるわけではないので留意しておいて頂きたい。③「くにっこ」の利用者数データについて、それぞれのルートについて平成 23 年度と 24 年度 2 月までの毎月の便毎のデータをまとめた資料を用意した。ルート毎、時間帯別の利用状況が読み取れると思うので検討いただきたい。

（２）地域公共交通会議について、前回会長の方からも説明があったが事務局で再度まとめたものが会議資料 No.1 である。2. にある通り「積極的に議論し、実現する場」としていきたいが、対象交通モードはバス・タクシーと考えている。また公益性（福祉）と経済性（財政負担）のバランスも考えながら、前提条件にある通り、車椅子対応の路線定期運行、事業評価（改善・継続・廃止の判断）を行うため最長 3 年間の試行運行の実施、ワゴン車での運行、平日のみの運行というあたりで考えていきたい。

会 長：以上の説明に対しご意見等あれば出していただきたい。

委 員：対象の交通モードの文言に「主に」を入れて頂きたい。その理由は、自転車も考慮する必要があると考えるからである。

事務局：了解。

委 員：コミバスのサービス内容について、採算性を優先するのか、高齢者の外出支援など福祉的な性格を重視するのかなど、何を最優先するのかははっきり示して頂きたい。

委 員：収支（採算性）と福祉のバランスはどのあたりになると考えているか？

事務局：市としては、公共交通の主たる手段は路線バスと考えている。路線バスのない交通不便地域についてはコミュニティバスでやっている。対象は、高齢者、しょうがいしゃの移動手段としての性格も持ち合わせるかたちで始めた。一方、近年の要望としては通勤通学、買い物などの足としての生活支援の側面が強くなってきており運行開始当初と目的が変わってきている部分もある。営業係数や（数値にはしにくい）が）地域への貢献度などを参考に、地域の特性や運行できる車両を考え合わせながら、路線ごとに優先順位を考えるようにしていきたいと考えている。

委員：道路運送法 21 条で実施する試行運行は 1 年以上の延長は認められないため、試行運行を 3 年やる場合には 4 条でやる必要がある。タクシー会社で 4 条を取るためには 3 カ月程度の時間が必要になるので念のため指摘しておく。

事務局：了解。

委員：休日だったが「くにっこ」の路線の 8 割程度実際に乗車してみた。青柳・泉ルートはシルバーパスの利用が多く、高齢者の外出の足としての必要性が感じられた。今後、高齢化に伴う自動車運転免許返納者の増加などへの対応も考え、福祉的な側面への対応も必要ではないか。

会長：地域ごとのニーズの優先順位を考慮に入れながら、個別の地域ごとに福祉と利便性と収支のバランスを考えていく方向でお願いできればと考えている。

事務局：了解。

委員：武蔵野市のムーバスは、駅周辺をコンパクトに高頻度で運行することで商業的な面での支援もあると聞いているが、国立市の場合は交通弱者の救済という側面がこれからも求められるのではないかと。自転車で問題なく移動できる人向けには自転車駐車を充実させるなどの方向性も重要である。

委員：ワゴン車による乗合タクシーの場合は、旅客定員が最大 9 名であり立席も不可能であることからターゲットを明確に絞り込む必要がある。収支も考えると運賃の設定は慎重に検討したほうがいいと思われる。

会長：資料 No.1 の 2 ページ目の「前提条件」は、かなり具体的に書き込んで頂いているが、最終的にはこの会議の場で決めていく内容ではないか。

事務局：この会議の場で検討し決めて頂ければと考えている。

副会長：昨年の夏以降、事務局で具体的な検討をすすめた経緯もあり、このような記述になっているものと思われるが、この会議の場で検討していただければと思う。

会長：福祉を重視するか、採算性を重視するか、そのバランスについては地域ごとに個別に議論していくということよろしいか

委員一同：異議なし。

3. 議題～コミュニティバスの見直し・改善等について

事務局：資料 No.2-1、2-2 を説明。その中で、参考資料 No.3 と No.4 も説明。

委員：泉ルートをワゴン車にする前に、現在のルートを修正するなどして利便性を高めることはできないか？道路などのインフラ整備が進まないといけないの

かもしれないが、一方通行にするなどして甲州街道市役所入口信号を南下させたり、現在のルートの逆回りコースを設定したりすることはできないか？

委員：資料 No.2-1 の 1. にあるコミュニティバスに対する市の考え方だが、①～③は並列にならぶ内容ではないように思う。②、③がそれぞれ運行の目的であり、①はそのための方法と考える。また、私は東 2 丁目在住であるが、資料 No.2-2 にある東地域から市役所方面への移動ニーズはどの程度あるのか疑問である。

事務局：東地域から市役所方面への要望は、議会などで繰り返し出ているほか、自治会からの要望もある。高齢者の日中の福祉会館（入浴サービスなど）への移動ニーズは高いと捉えている。

委員：前回、「くにっこ」に実際に乗ってみるべきだというご意見もあったので乗ってみたが、矢川駅前はどこから「くにっこ」に乗れるのか分からなかった。また、バス停の表示なども分かりにくい箇所が多く、乗り心地も路線バスに比べるとの悪い車両があった。なお、高齢者外出支援という意味では、この時期に桜めぐりの観光バスのような運行も面白いのではないか。

委員：青柳・泉ルートは、続けて乗ると約 80 分。区画整理の中の方まで入っていくので右左折が多く乗っていて酔いそうになった。幹線道路を（循環ではなく）往復ルートで効率的に走る方がいいように感じた。

委員：後ろドアで車椅子を乗せ降ろすのは、道路幅などを考えると望ましいことである。

事務局：事務局でも青柳・泉ルートの利便性向上についてはこれまでもさまざまな検討を重ねてきたが、そもそもの始まりが「交通不便地域の解消」ということで現在のような状況になっていると認識している。乗り心地の悪いバスについては、今年で 10 年を迎える車両が該当すると思われるが、床面がすべてフラットなのでこの車両の人気は意外と高いという側面もあることはご理解いただきたい。また、運行する目的をきちんと整理しニーズに合ったものとすることで市民の生活を支える交通サービスにしていきたいと考えている。

委員：ワゴン車による乗合交通は他市の事例を参考にしていると思われるが具体的にはどのあたりを参考にしているか？

事務局：小平市と小金井市を参考にし、実際に視察に赴き担当課から話を聞くなどしている。このほか、多摩地域では日野市が丘陵地における生活の足として乗り合いタクシーを走らせているが、こちらは車椅子となっていない。

委員：バス事業者としては、各市でのコミュニティバス運行開始から約 10 年が経過する中で、運行の目的が当初の目的から次第にシフトしているようにとらえている。運行補助額に目がいくのはやむを得ないところはあるが、本来の目的を再確認し、どのようなサービスを提供するか考えて頂きたい。なお、乗り合い交通として売り上げを伸ばすためには「需要に応える路線選定」と

「定時性の確保」と「運賃の設定」の 3 条件を最適に設定することに尽きる。路線を整理し 80 分間隔を 60 分間隔にして、利用者がほぼ倍増した事例もある。

事務局：もともとコミュニティバスは黒字にすることは基本的に考えていない。ただ、限られた予算の中で、最も適切な運行のありかたを求める必要はあるのではないかと考えている。

委員：やはり公共交通は、自転車なども含めたトータルバランスで考える必要があるのではないか。実際に、国立駅へのアクセスは自転車が多く、これをバスに転換させるような方策も考えた方がいいように思われる。

委員：ワゴン車での乗り合いサービスを実施する場合の運賃の収受はどのような形になるか？

事務局：小金井市、小平市の場合は、シンプルな投げ込み式を採用している。バスで使用している料金箱は車両の電源容量から採用は難しいと聞いている。

会長：とりあえず、今日の会議は「くにっこ」の利便性向上にワゴン車でのサービスを含めるということに対して合意をいただいたということでよろしいか。

委員一同：異議なし

会長：では、次回はそれを含めた提案をいただけるということで事務局よろしいか？

事務局：了解。

4. その他

事務局：次回の日程は、平成 25 年 4 月 25 日午前 9 時 30 分から市役所 3 階会議室で開催したいと考えている。

委員一同：異議なし。

(16 : 20 終了)